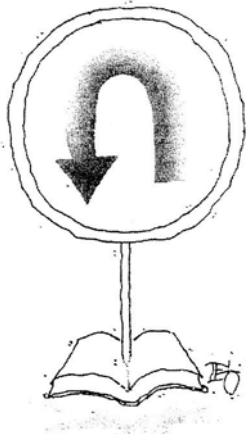


## U - ターン行進

### 第3編3章

信仰による再生としての悔い改めについて



一言で悔い改めを説明するならば、それは再生であると言えます。悔い改めの唯一の目的はアダムが犯した罪によって損なわれてしまっていた神の形を私たちの内に回復させることです(エフェソ 4:23,24;コロサイ 3:10;第二コリント 3:18)。そしてこの回復はただ一瞬のことや、一日、ないしは一年で完成するものではなく、信者の生涯に渡って完成されるものなのです。

ドライバーは何よりも交通標識をよく理解しておく必要があります。進入禁止や速度制限を示す規制標識や、横断歩道や安全地帯を表す指示標識、交差点や危険地帯を示す警戒標識など交通標識には様々なものがあります。もしこれらの標識の意味を知らなかったり、知っていてもそれを無視するのならたいへんなことになってしまいます。あなたは中でも進路変更を促す表示を見たことがありますか。私たちは聖書が示すこの進路変更の標識に注意を払う必要があります。なぜなら聖書は私たちに悔い改めというU - ターンをするように呼びかけているからです。

第1節 信仰と悔い改めの関係：悔い改めは信仰の結果である。

悔い改めと罪の赦しは福音の全体であると言ってもよいものですが(ルカ 24:47;使徒 5:31)、それらは信仰という木に実った果実のようなものです。「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタイ 3:2、4:17)という言葉は再洗礼派やイエズス会の人々の主張のように天国よりも悔い改めがまず先であると言っているのではなく、この言葉は「天国が近づいた、だから悔い改めよ」と言う意味で言っていると考えることができます。天国の喜びの知らせを知らなければ、悔い改める人はいないからです(参照、イザヤ 40:1-3)。信仰から悔い改めに至るまでどのような時間的な経過があるかを語っているのではなく、神の恵みを知らない人が真実に悔い改めることはできないことを言っているのです(詩 130:4)。

悔い改めは「死」(mortification)と「生きること」(vivification)の二つの部分からなっていると書いたメランヒトン(1523-1591)は正しいことを語っています。死とは罪を知り、神の審判を知るようにされた罪人の魂の悲しみと恐れを語っています。彼は自分自身を心から憎み、今ある自分とは違った人間になろうと願います。このように絶望の状態に陥ることを悔い改めの最初の段階と考え、それは「痛悔」(contrition)と一般に呼ばれています。一方、「生きること」とは信仰から生じる

慰めと解釈されます。つまり恐怖と絶望に捕らえられていた人々が神の憐れみと恵みに満ちた救いを仰ぎ見て自分自身を立て直して、勇気を回復することを言うのです。このとき人は心の混乱と恐怖が沈静化される程度のもではなく、心の内から聖かつ敬虔に生きようとする全く新しい願いが生じることを意味します。

第2節 悔い改めについての定義：悔い改めは神に完全に立ち返ることである。

ある人々（Bucer、Melanchthon）は悔い改めを律法的な悔い改めと福音的な悔い改めの二つに分けようとします。つまり、律法的な悔い改めとはカイン、サウル、ユダたちの場合のように律法によって自分の罪を悟らされ、神の怒りを恐れ、良心の呵責と恐怖に捕らえられた状態ですが、結局救いに結びつくことがないためにそれは地獄への玄関口にすぎないというものです。

しかし、福音的な悔い改めはヒゼキヤやニネベの町の人々、ダビデやあるいはペトロたちのように自らの犯した罪を悲しみながらも、神の恵みを信じて、生きる望みを取り戻し、もう一度立ち上がって神のもとに返って行った人々の状態を言っています。もちろん信仰と悔い改めの密接な関係を指摘することはたいへんよいことです。この両者は決して分離することができないものだからです。しかし、二つの関係を混同させるのではなく、はっきりと区別した状態で考えた上でそれらは結合されなければなりません。

悔い改めにあたるヘブル語の言葉の意味は「向き変わり」あるいは「立ち戻り」であり、ギリシャ語では「心の転換」あるいは「意志の転換」となります。ですから悔い改めとは私たちの生涯を神に立ち返らせることですが、それは神を純粋にまた真摯に恐れことから生じる真実なる人生の方向転換と言えるのです（マタイ 3:2;サムエル上 7:2,3;ルカ 3:8;使徒 26:20;ローマ 6:4）。そして悔い改めの要素は私たちの肉と古い人が死ぬことと共に聖霊によって新しく生きることからなっています。

このような定義をさらに具体的に説明してみましょう。第一に、悔い改めは外面的な行為ではなく、内面的な魂それ自身が神に立ち返ることを要求します（エレミヤ 4:1-4;エゼキエル 18:31;申命 6:5,10:16;イザヤ 58:6;ヤコブ 1:8）。そして第二に、悔い改めは神を真実に恐れるところに生じます。ですからパウロは「神にしたがう悲しみ」こそ悔い改めの原因であると語っています（第二コリント 7:10;エレミヤ 4:4;使徒 17:30,31）。

第三に、悔い改めは肉に死ぬことと御霊によって生きる二つの要素からなっています（詩 37:3,8,37;イザヤ 1:16,17）。私たちの肉的本性は徹底的に神に敵対しているので（ローマ 8:7）もし神が御霊の剣によって私たちの本性を斬り殺されることがなかったならば、私たちは神への真の恐れを感じることはなかったはずで、そして敬虔な生活の第一歩を学ぶこともできなかったでしょう。そして、この両方のことは私たちがキリストの死と復活にあずかることから起こるので（ローマ 6:6）。

一言で悔い改めを説明するならば、それは再生であると言えます。悔い改めの唯一の目的はアダムの犯した罪によって損なわれてしまっていた神の形を私たちの内に回復させることです（エフェソ 4:23,24;コロサイ 3:10;第二コリント 3:18）。そしてこの回復はただ一瞬のことや、一日、ないしは一年で完成するものではなく、信者の生涯に渡って完成されるものなのです。神は信者が生涯に渡って悔い改めというコースを走るようにと指定してくださっているのです。

### 第3節 悔い改めの完全性：信者はいまだに罪人である。

再生した人の内にも依然として悪を挑発させる火種が残っています。そこから絶え間なく情欲がわき出て、人に罪を犯させるようにそそのかすのです。アウグスチヌスが語ったように聖徒たちはむさぼりの欲 (concupiscence) という病に感染していて、たびたび淫欲や貪欲、野望、そして他の悪徳へとそそのかそうとする衝動を阻むことができないと感じます。一言で言って信者は、再生はしていますが依然として罪人なのです。

しかしながらアウグスチヌスはそのむさぼりの欲の病を「罪」とは呼ばず「弱さ」と言っています。この弱さに私たちの意志が屈服させられ、同意させられるときにそれは罪となると言うのです (参照、ヤコブ 1:15)。しかし、人が神の律法に反した欲望の衝動を感じただけでもそれは罪となるのです。私たちは私たちの内に悪しき欲望を生じさせる歪みそのものを罪と呼ぶのです。

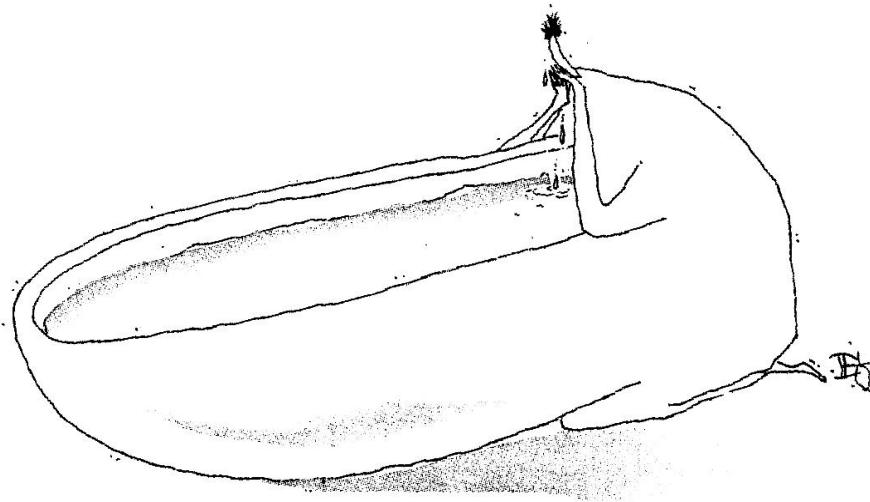
再生した神の子供たちにおいて罪はその支配力を失いますが、依然として彼らの内に残滓が残っているとと言えます。この残滓は聖徒を支配することはありませんが、聖徒たちに自分の弱さについての意識を促し、へりくだらせるのです。ですから律法は心を尽くして、魂を尽くして、力を尽くして神を愛しなさいと命令しているのです (申命 6:5; マタイ 23:37)。そしてそのようにしようとしないう欲望のすべてが罪と言えるのです。アンブロシウスも洗礼によって罪責は取り除かれるが罪の法則は残っていると述べています。

しかし、再洗礼派の人々は完全性と言う幻想を抱いています。再生した人は完全に純血な状態となったためにもうそれ以上肉の欲望のために振り回される必要はないと言うのです。だから指導者である聖霊に従うことだけでよいと言うのです。そして聖霊は悪を命令することがないために聖徒は罪を犯すことはないと言うのです。それは狂気に満ちた人間の傲慢な言葉だと言わざるをえません。このように考えるなら聖霊は殺人、放蕩、泥酔、傲慢、闘争、貪欲、欺瞞の保護者となってしまいます。実際に私たちは肉体のかたまりの内に包み込まれている間、なお多くの罪と弱さに悩まされなければならないからです。

聖徒は死を迎えるまで終わり無き罪との戦いをなし、前進していかなければなりません。私たちのU - ターン行進は敵の陣地を占領するまで前進しなければならない軍人たちの行進のように一生涯に渡って続けられるのです。第二コリント 7章 11節には神の御心に適ったこの悲しみが私たちにもたらす実を記しています。それは熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、懲らしめの8つのものですが、これらは悔い改めと関連した事柄として悔い改めの原因とも、結果ともなりえるものなのです。私たちはこのようなものによって日ごとに悔い改めをなし、さらにその悔い改めの結果とこのようなものを実として受け取るのです。ですからベルナルドゥスの言葉のように罪についての苦痛は、それが間断なきものでないならば必要であると言えるのです。

### 第4節 悔い改めの実：外面的な悔い改めと内面的な悔い改め、悔い改めと罪の赦し、本物と偽物

悔い改めの実は何か。それは神に対する敬虔、人に対する愛、全生涯に渡る聖と純潔です。しかしながら、何よりもまず私たちが神と相対するとき心の内面的な態度から始まらないかぎり何の益にもならないと言うことを知らなければなりません (ヨエル 2:13; ヤコブ 4:8)。もちろん肉体の訓練もある程度は悔い改めの助けにはなります。しかし、ある人々はそれをあまりにも強調し過ぎて、それよりもさらに重要な内面的な問題を見過ぐすと言う過ちを犯しています。



またそのような訓練は温和さに基礎を置く教会の特性に脅威を与えるほどに厳格すぎるものでもありました。さらにある人々はヨエル書(2:12)を例にあげて悔い改めは泣くことと、断食することだと主張しました。これは大きな誤解でしかありません。このようなものは悔い改めにいつも伴うものではなく、特別な場合に限られるものです。実際に信者の生活は謙遜と節制で抑制されるので、その生涯はそのような意味ではいつも断食のようなものと言えるかもしれません。

また、ある人々は悔い改めを公的な告白と同一視させています。しかし、悔い改めは罪責についての告白と言うよりは実際に神に立ち返ることであり、厳しい裁きの座に出されることから逃れることができるようにと願い求めることです。ですから私たちは毎日犯す罪を告白するだけではなく、重大な罪について長い間忘れていたことをもいつも告白しなければなりません(イザヤ51:3-5,25:7)。また悔い改めは死から命への悔い改めでもあり、日ごとに止むことなく行っていかなければならないものなのです。

悔い改めと罪の赦しという二つの言葉だけで福音を完全に表現することができます(マタイ3:2,4:17;マルコ1:4,15;ルカ3:3,24:26,47;使徒5:30,31)。従ってキリストの内にある者たちは悔い改めを目標として生き、人生を通じて、肉の性質を捨て、終わりの日まで悔い改めを求め続けなければなりません。キリストはすべての罪人を招きに来られたのですが、その目的は彼らを悔い改めさせるためでした(マルコ9:13)。

プラトンは死を瞑想することが哲学者の生活であると語りましたが、私たちは信者の生活は肉に死ぬための終わりなき努力であり、訓練であり、最後に肉が完全に死に、神の霊が私たちの内に支配を成し遂げられることであると言えます。悔い改めは罪の赦しの条件ですが、悔い改めは私たちの資格とはなり得ません。なぜならば、悔い改めはただ神の慈しみ深き決定から来るものだからです。悔い改めをする心は神が無代価で与えてくださる賜物であると言えるからです(第二テモテ2:25,26;使徒11:18;第二コリント7:10;エフェソ2:10)。

しかしながら聖書は恐るべきことに赦されない罪があると語っています(ヘブライ6:4-6,10:26-29)。昔、ノバティアヌス(Novatianus)派はそのようなものは存在しない、そのように書かれているならばその書物は聖書ではないと語りました。しかし、この言葉はイエスの語られ

た言葉と一致しています(マタイ 12:31,32;マルコ 3:28,29;ルカ 12:10)。それならばこの恐るべき罪とはどのようなものでしょうか。それは神の真理の照明を十分に受けて、知らないと言う言い逃れはできないにも関わらず、はっきりとした悪意をもって神に反抗しつづける罪を語っています(ルカ 12:10;マルコ 3:29;使徒 6:10;マタイ 9:34,12:24)。

簡単に要約して言うならば、無知と不信仰が一緒になった状態から犯す罪は赦されても(第一テモテ 1:13)知識と不信仰が一緒になった状態から犯される罪は赦されることがないということです。そして聖書が二度目の悔い改めが不可能であると語っているのはある特定の罪を言っているのではなく、神に逆らって、もう一度戻れると想像し(意図的、計画的)て犯す全人格的な背教の場合を言っているのです(ヘブライ 6:4,5,10:26)。ですから赦されることのない人々とは、つまり悔い改めることができない人々を意味しています。

例をあげればエサウのような者たちの嘆きと涙は悔い改めのためのものではなく、絶望状態に陥った人間たちの恐怖におびえる苦しみを意味しているにすぎないのです(ヘブライ 12:16,17;ゼカリヤ 7:13)。また、アハブのような人々の悔い改めは偽りの悔い改めとすることができます。彼は偽りの悔い改めによってしばらくの間は赦しをうけることができましたが、依然として彼の生涯には神の怒りがとどまり続けたのです(列王上 21:27-29;詩 78:36,37)。

神が偽りの悔い改めをしばらくの間だけ許される理由は何なのでしょう。それはすべての罪人を真の回心に導こうとするためであり、また彼らに弁明の余地を残さないためでもあります。さらには後に刑罰を倍にすることで偽りの悔い改めを憎んでおられることを示そうとするためでもあり、そしてさらに敬虔な者たちに悔い改める勇気を与え、頑固で傲慢な者たちには厳格な裁きをくだすためなのです。

#### 結びの言葉

悔い改めるとはU - ターンすることです。私たちが墮落した本性に従う道から離れて、神に立ち返ることを言っています。もちろん、これは信仰の結果から生じるものです。罪の赦しを約束する福音を信じる者だけがこれを行うことができます。しかし、再生した人たちの内にも罪の残滓は依然として残されているために聖徒の悔い改めの行進は一生涯続けられるものと言わなければなりません。